

大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」原稿作成例

評価 太郎¹・評価 次郎²・評価 花子³

概要: 情報誌「大学評価とIR」の趣旨は、我が国の大学評価業務およびIR業務の高度化を目的としたものである。本情報誌に投稿できるのは本会の会員のみとし、原稿の長さは投稿区分により2頁から12頁程度とする。

キーワード: 大学評価、IR(インスティテューショナル・リサーチ)、人材育成、ルーブリック、コンソーシアム

1. タイトル部分(1ページ目のみ)

題目、著者氏名、概要、キーワードを以下の順に記載してください。

①題目は、**ゴシック系のフォント**を基本とし、フォントサイズは12ポイントで、レイアウトはセンタリングとします。その後、(フォントサイズは12ポイントとし、)1行空けます。②著書氏名は、明朝系のフォントを基本とし、フォントサイズは10.5ポイントで、レイアウトはセンタリングとします。著者が複数の場合は、著書氏名については1行に並べてください。その後、(フォントサイズは10.5ポイントとし、)1行空けます。③概要は、明朝系のフォントを基本とし、フォントサイズは9ポイントとします。記入後、1行空けます。④キーワードは、明朝系のフォントを基本とし、フォントサイズは9ポイントとします。キーワード数は、5語以内とします。その後、(フォントサイズは10.5ポイントとし、)1行空けます。

所属や連絡先(電話番号、メールアドレス)は、可能な範囲で掲載することができます。掲載する場合は、脚注として追記してください。

2. 本文部分(1ページ目以降)

本文は、1段組とし、文字数は40字、行数は38行を標準とします。本文は、明朝系のフォントを基本とし、フォントサイズは10.5ポイントとします。

余白は、上下・左右とも25mmとします。ページ番号は、フッターとして全ページの下部中央に入れてください(1から附番していただいて結構です)。下からフッター位置は12mmとしてください。

題目等はヘッダーとして挿入してください。これは可能な範囲で結構です。

地名、人名等の難読漢字には、ふりがなをつけてください。外国の地名にはカタカナ、数字にはアラビア数字を使用してください。また、オリジナルの地名については、括弧書きで追記しても差し支えありません。

2.1. 見出しのレベルについて

見出しのレベルは、章、節の2段階までとします。章の見出しは、**ゴシック系のフォント**を基本とし、フォントサイズは10.5ポイントとします。また、1.のように先頭に番号をつけて記載します。節の見出しは、**ゴシック系のフォント**を基本とし、フォントサイズは10.5ポイントとします。また、1.1.のように先頭に番号をつけて記載します。

章、節の見出しの上は、1行あけます(フォントサイズは10.5ポイント)。

2.2. 図及び表について

図(写真を含む)及び表は、図1、表1のように番号をつけて記載します。図のタイトルは下側、表のタイトルは上側に配置してください。図及び表のタイトルは、フォントサイズ10ポイントの**ゴシック系のフォント**としてください。なお、図及び表中の文字は、極端に小さくならないように留意してください。

表1. 表の例

評価の種類		国立	公立	私立	実施周期
自己点検 評価	実施・公表	○	○	○	期間に関する定め は特にない
	外部評価	△	△	△	
法人 評価	中期目標期間 評価	○	※	—	6年に1度(もしくは 4年+2年で評価)

¹ 評価大学 インスティテューショナル・リサーチ室 准教授 メール: taro.hyouka@jcache.dummy

² 評価大学 インスティテューショナル・リサーチ室 助教 電話: 029-228-8572 メール: jiro.hyouka@jcache.dummy

³ 評価大学 総務部総務課企画戦略係 係長

機関別認証評価	年度評価(業務実績報告書)	○	※	—	毎年
		○	○	○	7年以内に1度等

図や表はこのように本文中に挿入してください。手順は以下に示します。

1)「挿入」→「表」で1×1の表を作成します。

2) 枠の左上を右クリックして現れるメニューの一番下の「表のプロパティ」を選択し、「文字の折り返し」を「する」にしてください。また、罫線(枠線)が不要ならば、同じように右クリックして現れるメニューの中ほどにある「線種とページ罫線と網かけの設定」を選択し、「罫線なし」を選んでください。

3) 貼りたい図や表をこの枠内に挿入しますが、表はExcelなどで編集したものを貼りつければ、上記のようになります。図の場合ですが、一般には「挿入」タブの「図」で挿入する図を選びます。PowerPointの場合は、次項のようにしてください。

2. 2. 1. スライドの貼り付けについて(1枚単位)

スライド1ページ分を、そのまま図として用いたい場合には、PowerPointでスライドのファイルを開き、左側のサムネイルから挿入したいスライドをクリックして選択します。そして、「コピー」を行います。

【作成した図をWord上で編集する場合】

・Wordに戻り、2)で作成した枠内に貼りつける時に「形式を選択して貼り付け」→「Microsoft PowerPointスライドオブジェクト」(Word2013の場合)を選んでください。

この形式で貼りつければ、大きさの変更はもちろん、内容の変更も可能ですし、スライド内の文字情報がPDF後も保持されます。

【作成した図をWord上では編集しない場合】

・Wordに戻り、2)で作成した枠内に貼りつける時に「形式を選択して貼り付け」→「図(拡張メタファイル)」(Word2013の場合)を選んでください。この形式で貼りつければ、大きさや内容の変更はできませんが、作成時の状態が保持されます。

なお、操作が分からない場合には、挿入箇所をWordファイルに明記の上、図ファイルを編集委員会にお送りください。

表2. 自己点検評価、外部評価、第三者評価の違い(10ポイント:MSゴシック)

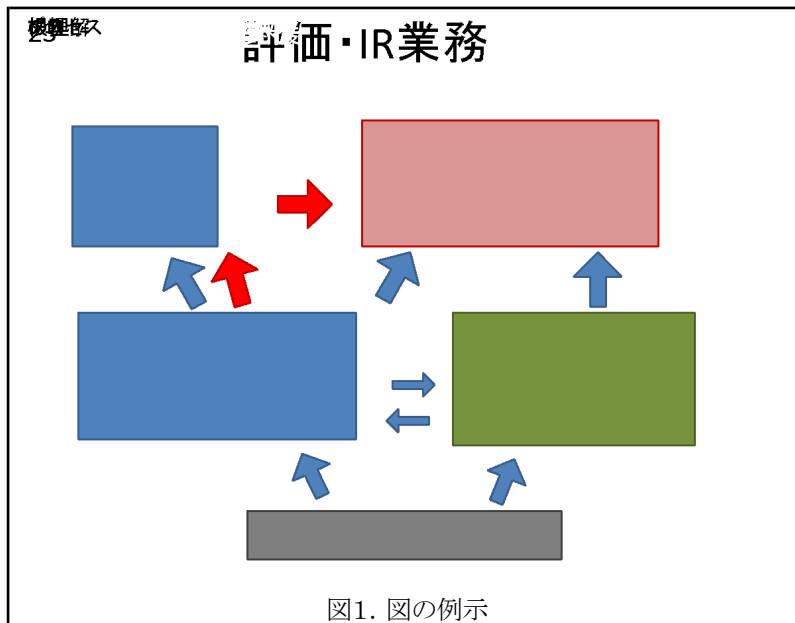
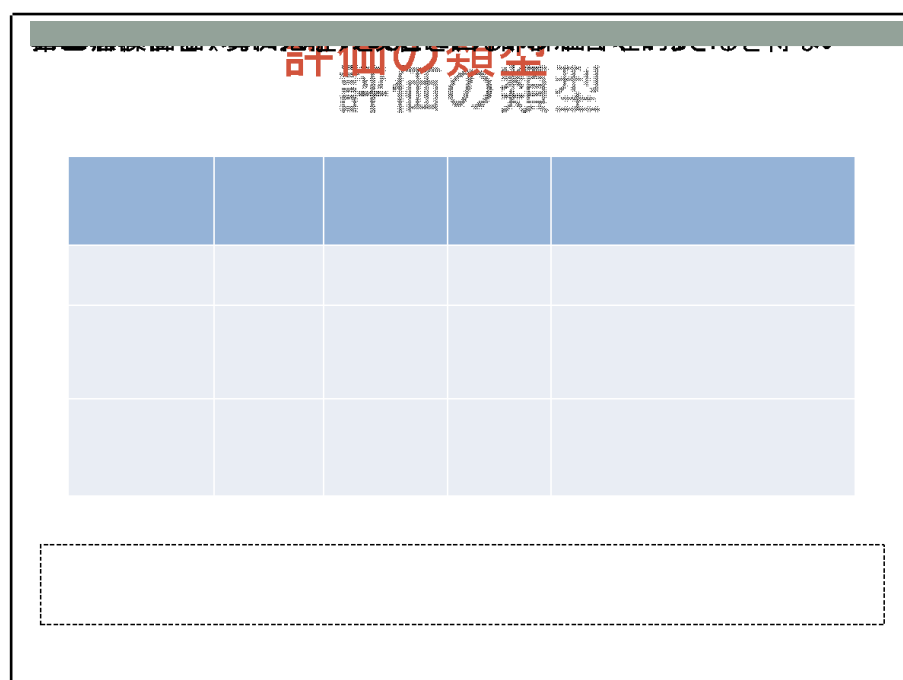


図1. 図の例示



図表が大きい場合、それらの脇に文字を配置しなくても結構です。表に関しては、新たに作り直していただく代わりに、スライドを貼りつけても結構です。

2. 2. 2. スライドの貼り付けについて(部分)

スライド1ページのうち任意の部分のみを、図として用いたい場合には、**PowerPoint**でスライドのファイルを開き、図として用いたい部分が含まれたページを表示させ、右側の作業エリアで、図として用いたい部分のみを選択して「コピー」を行います。この際、グループ化してからコピーするとよいです。

【作成した図の一部を編集する場合】

・**Word**に戻り、2)で作成した枠内に貼りつける時に「形式を選択して貼り付け」→「Microsoft Office グラフィック オブジェクト」(**Word2013**の場合)を選んでください。この形式で貼りつければ、大きさの変更はもちろん、内容の変更も可能ですし、スライド内の文字情報がPDF後も保持されます。

【作成した図の一部を編集しない場合】

・**Word**に戻り、2)で作成した枠内に貼りつける時に「形式を選択して貼り付け」→「図(拡張メタファイル)」(**Word2013**の場合)を選んでください。この形式で貼りつければ、大きさや内容の変更はできませんが、作成時の状態が保持されます。

なお、操作が分からない場合には、挿入箇所を**Word**ファイルに明記の上、図ファイルを編集委員会にお送りください。

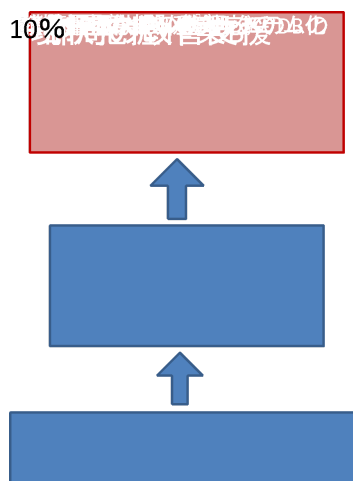


図2. パーツの貼りつけ

2.3.脚注について

脚注は、なるべく使用せず、やむを得ない場合のみ使用してください。

3.【引用文献、謝辞等部分】(最終ページ)

引用文献は、本文中では小湊(2014)、(佐藤, 2014)や関・大野(2014)、共著者3名以上のときは浅野ほか(2014)、Sato et al. (2014)、(Sato et al., 2014)のように記載してください。また、長い論文や書籍から引用するときは、引用頁を示してください。

引用文献は、本文の最後に「引用文献」として和文(50音順)・欧文(アルファベット順)に分けて記載してください。また、引用文献が複数行になる場合、2行目以降については、ぶら下げを「2文字」に設定してください。

また、同一著者の文献においては、古い文献から記載し、同一年の場合には、a、b等の判別をつけるための記号を附してください。その際、共著者名、論文題目、書籍名等は省略せずに記載してください。

引用文献の見出しの文字は、ゴシック系のフォントの太字にします。引用文献の上は、1行あけます(フォントサイズは10.5ポイント)。

謝辞は、結論の後に記載してください。謝辞の見出しの文字は、ゴシック系のフォントの太字にします。謝辞の上は、1行あけます(フォントサイズは10.5ポイント)。

謝辞

本原稿を作成するにあたり、評価大学インスティテューショナル・リサーチ室の経営教授から、多くのご助言を賜りました。ここに感謝の意を表します。

引用文献

小湊卓夫, 中井俊樹(2007)「国立大学法人におけるインスティテューショナル・リサーチ組織の特質と課題」,『大学評価・学位研究』第5号, 17-34.

畠田敏行, 藤原宏司, 浅野茂, 大野賢一, 関隆宏, 小湊卓夫, 土橋慶章, 本田寛輔(2014)「米国の中規模州立大学のIRオフィスおよび国立大学の評価・IR部署における業務の現状と今後の展開に関する一考察」,『日本高等教育学会第17回大会発表要旨集録』, 46-47.

大学評価コンソーシアム(2014)『勉強会:米国におけるIR実践を通して考える日本型IR報告書』(平成25年11月12日実施), 2014年3月. <http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=ir20131112> (最終閲覧日:2014年12月xx日)

Saupe, J. L. (1990). The functions of institutional research (2nd ed.). *Association for Institutional Research*. Retrieved from <https://www.airweb.org/educationandevents/publications/pages/functionsofir.aspx> (最終閲覧日:2014年12月xx日)

Terenzini, P. (1993). On the nature of institutional research and the knowledge and skills it requires. *Research in Higher Education*, 34(1), 1-10.

Volkwein, J. (2008). The foundations and evolution of institutional research. *New Directions for Higher Education*, (141), 5-21.

*オンライン文献および脚注にあるURLの最終閲覧日は全て2016年6月1日である。

(※このように一括で最終閲覧日について記述してもよい)

[受付:令和●年●月●日 受理:令和●年●月●日]

■引用文献に記載した論文等のDOI提供に関するお願い

情報誌「大学評価とIR」は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームである「科学技術情報通信・流通総合システム」(J-STAGE)で公開しており、引用文献の論文等に対してDOIの登録が可能になりました。

については、初校原稿送付時に別紙「引用文献に記載した論文等のDOIリスト*」もお送りしますので、引用された論文等にDOIが付与されていたらご記入ください。

*本リストの提出は必須ではありませんので、可能な範囲でご協力いただけると幸いです。